

平成9年度

郷土資料の作成と活用に関する研究

— 副読本「かわさき」を活用した授業研究を通して —

川崎市総合教育センター郷土資料研究会議

郷土資料の作成と活用に関する研究

— 副読本「かわさき」を活用した授業研究を通して —

郷土資料研究会議

伊東 芳男¹

土川 泰²

前島 和樹³

要 約

副読本「かわさき」(以下「副読本」と呼ぶ)は、昭和30年の発刊以来、数次の改訂を経てきた。平成5年度に現在の副読本を発刊し、平成6、7年度には、副読本の効果的な活用を探るため授業研究にも取り組んできた。しかし、副読本の学習への活用方法についてはあまり理解されずにいるのが実情である。

そこで、副読本のより効果的な活用をはかるため、授業研究により明らかになった副読本の活用方法をまとめる

「副読本かわさき活用事例集」の作成に取り組んだ。また、授業研究を通して、生き生きと子どもが取り組める副読本の学習素材や学習を組み立てていく上で有効な資料の開発・検証も進めてきた。さらに、授業研究、活用事例集作成、学習素材・資料の開発、部分改訂の各研究の成果を次期大改訂の基礎資料として蓄積するとともに、次期大改訂用プロット案としてまとめていくことで各研究内容をリンクさせることを試みた。

授業研究を通してみると、子どもたちの問題意識をどのように引き出すかによって副読本の活用の仕方が違ってくることがわかってきた。特に高学年では子どもたちの生活経験の外にある「日本の産業や歴史」「世界とのつながり」などの学習への窓口として「身近な川崎ではどうなっているのだろう。」という視点を持つことで有効に活用できる。こうした川崎(地域)発の学習において副読本は高学年でも大きな効果を発揮することがわかってきた。

副読本は、3・4年生の社会科学習を想定して編集されているため、学年があがるに従い授業で活用されることが少なくなる。副読本の活用という観点からだけでなく、現在求められている「生きる力」の育成という観点からも、従来の副読本の内容を子どもたちにどう教えるかという学習から、副読本を一つの資料としてどう使いこなすかという学習能力を育てる学習へと教師の発想を転換していく必要がある。子どもたちが副読本を楽しみ、副読本で自ら学べることを願い活用事例集を作成した。

次期大改訂に向けたプロット試案作成については、現在の副読本の改善点や今後の学習に必要な要素をふまえ、環境、平和、ボランティアなどの今日的課題や川崎の歴史分野を充実させ、高学年や中学校での活用をも視野に入れ研究を進めていくことにした。これらの研究を通して、子どもと子どもの学習を支える教師が共に学習を楽しみ副読本を活用できるよう授業研究を重ね、その方策を考えていきたい。

キーワード：社会科、副読本、郷土資料、川崎発の学習、学習能力の育成、活用事例集、プロット試案作成

目 次

I 主題設定の理由	2. 活用に当たって
1. 研究の意義 …………… 146	(1) 配布時の活用 …………… 152
2. 研究の方法 …………… 146	(2) 産業学習での活用 …………… 153
II 研究の内容	(3) 歴史学習での活用 …………… 154
1. 検証授業から	3. 部分改訂について …………… 155
(1) 「わたしたちの神奈川県」 …………… 148	4. 活用事例集について …………… 156
(2) 「運輸業にたずさわる人々」 …………… 149	5. プロット試案について …………… 157
(3) 「江戸時代を旅する」 …………… 150	III 研究の成果と今後の課題 …………… 158
(4) 「まちの人たちの仕事」 …………… 151	指導助言者・執筆委員

¹川崎市立久末小学校教諭(研修員)

²川崎市立菅生小学校教諭(研修員)

³川崎市総合教育センター研修指導主事

I 主題設定の理由

1. 研究の意義

(1) 今後の副読本のあり方

現行の副読本は平成3, 4年度に改訂準備に入り, 平成5年度に全面改訂されている。平成6年度には写真・資料などの部分改訂に加えて, 「教室で使える副読本」をめざし, 教師向けの学習指導資料を発刊した。5, 6年次目にあたる本研究では3, 4年次で行ってきた部分改訂と授業研究を引き継ぐとともに, 副読本の有効な活用の仕方を研究していくことにした。川崎市では, 学習資料としてだけでなく, 市民読本としての性格も期待しながら, 昭和30年より副読本を発刊し続け, 今年で42年目を迎えた。

地域とのかかわりが薄い, 身近な人との出会いが少ないという子どもの実態がクローズアップされている今日, 地域とのかかわり, 身近な人との出会いの機会を重要視する動きもみられるようになってきた。地域とのかかわり, 地域を学ぶということは, 地域に愛着を持ち, 地域の一員として, 地域社会に参加していくことであり, 家庭や学校にはない新たなふれあいが生まれてくる場もある。このような地域とのかかわりや地域学習の重要性を考える上で副読本は大きな役割を担っているといえるであろう。

地域学習を中心にすえた授業研究にあたっては

- ・地域に根ざし, 地域の素材や地域の人々と出会える教材の開発
- ・地域と一体になった学習活動の工夫
- ・地域の切実な日常問題を取り上げ, その問題解決過程を重視した展開

という3つの視点を中心に進めた。

また, 社会科学習に副読本を活用していくためには, 従来の副読本の内容を子どもにどのように教えるかという学習から, 副読本を一つの資料として使いこなす学習能力を育てる学習へと教師の発想を転換していく必要がある。そのような学習を教師がイメージし, 学習に活用できるような手だてとして, 副読本の活用事例や授業の展開例, 授業や朝自習で活用できるワークシートなどを活用事例集としてまとめた。

そして, データや資料の収集については部分改訂に必要なものとともに, 川崎駅や溝の口駅周辺など, 川崎市内の日々開発によって姿を変えていく地域を撮影し, 「川崎の今を残す」活動も行うことによって, 大改訂及び社会科データベースのための資料収集をした。

これらの研究成果を次期大改訂に向けたプロット試案に集約し, 研究を進めることにした。

以上のことから, 副読本のあり方を, 子どもたちの地

域学習の案内役と考え, 子どもたちが「地域を学び」, 「地域で学ぶ」ことにより, 「地域に生きる力」や「地域から思考を広げる力」を主体的に身につけられるような副読本をめざしてきた。こうした地域(川崎)発の学習において副読本は, 高学年の学習でも大きな効果を発揮することが期待できる。さらに本研究を進めていきたいと考えた。

(2) 主題設定までの経緯

副読本は, 昭和30年の発行以来, 地域社会の変貌や社会情勢の変化に対応して改訂を重ね, 平成5年度には6度目の大改訂となった。現行の副読本の統計資料や写真などをより新しいものに改訂しながら, 子どもが活用しやすい副読本をつくり続けてきた。

42年間の取り組みに基づいて, 副読本をより広く, より効果的に学習の中で活用していくための課題は以下の通りである。

- ①「副読本を学習する」のではなく「副読本で学習する」という意識をもち, 子どもたちが問題を解決するための資料としてどのように位置づけられるかを明らかにする必要がある。
- ②中学年だけでなく, 高学年においても社会科の内容を損ねることなく, 地域資料を活用できるようにしていくための方法を明らかにする必要がある。
- ③授業研究を通して, 教員だけでなく, 子ども自身が興味を持ち, 自ら副読本を活用する方法を検証し, 普及させる必要がある。
- ④次期大改訂で必要な資料や写真及び内容を明らかにし, 基礎資料を蓄積するとともに次期大改訂プロット案としてまとめておく必要がある。

上記のような課題を解決し, 副読本のより効果的な活用を促進するために, 『郷土資料の作成と活用に関する研究—副読本「かわさき」を活用した授業研究を通して—』という研究主題を設定した。

2. 研究の方法

(1) 研究のねらい

- ①授業研究を通して副読本の活用の仕方を検証し, 成果を「活用事例集」にまとめる。
- ②授業の中から子どもたちが必要とする資料を検証し, 次期大改訂に向けデータを収集する。
- ③副読本の内容を見直し, 統計数値の更新や写真資料の一部差し替えを行うことで, より新しく分かりやすい副読本を提供する。
- ④授業研究・活用事例集などの研究を基に副読本のプロット試案を作成し, 次期大改訂の資料を蓄積する。

(2) 研究の計画

	【実践・研究】	【部分改訂】
平成8年度		
4月	・研究方針, 研究計画	・改訂方針, 計画
5月	・利用状況アンケート調査	・改訂箇所一覧作成
6月	・アンケート集約, 分析	・改訂箇所取材
7月	・検証単元, 検証方針検討	
8月		・改訂箇所取材
9月	・第1回授業指導案検討 ・活用事例集作成方針検討	・取材, 検討
10月	・第1回検証授業 4年「わたしたちの神奈川県」 (梶ヶ谷小 石塚綾子教諭)	
11月	・第2回授業指導案検討	・改訂写真検討
12月	・第2回検証授業 5年「運輸業にたずさわる人々」 (日吉小 金子和哉教諭)	
1月	・活用事例集検討	・取材, 検討
2月	・活用事例集検討	・脱稿
3月	・研究のまとめ	
平成9年度		
4月	・研究方針, 研究計画	・改訂方針, 計画
5月	・プロット案作成方針検討	・改訂箇所一覧作成
6月	・第1回授業指導案検討 ・プロット素案検討	・改訂箇所取材
7月	・第1回検証授業 6年「川崎宿と町人文化」 (小田小 佐川昌広教諭)	・開発地域取材
8月		・改訂箇所取材 ・開発地域取材
9月	・プロット案検討 ・活用事例集検討	
10月	・第2回授業指導案検討	・改訂箇所検討
11月	・第2回検証授業 3年「町の人たちのしごと」 (向丘小 中川通彦教諭)	
12月		・改訂写真検討
1月	・活用事例集作成	
2月	・プロット案作成	・脱稿
3月	・研究のまとめ	

(3) 研究内容と研究全体構想

① 研究内容

これまで郷土資料研究会議が積み上げてきた授業研究を中心にすえ、副読本「かわさき」活用方法を検討していくことにした。

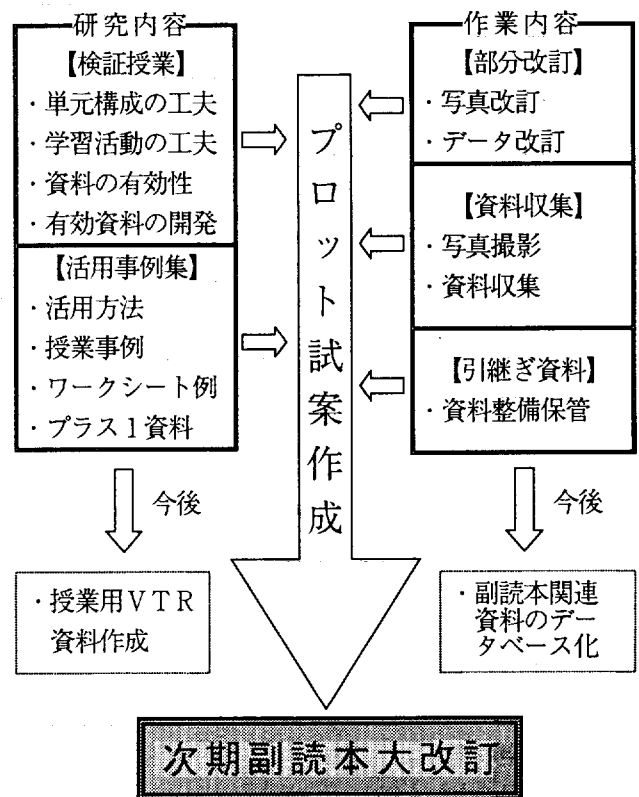
年間2回、計4回の検証授業については、以下の視点

から研究し、検証を進めていくことにした。

- ・社会科本来のねらいに基づき、副読本の有効な活用方法の検証ができるよう学習を組み立てる。
 - ・高学年においても「地域を学ぶ、地域で学ぶ」ことができるよう川崎（地域）発の単元を構成する。
 - ・子どもたちが必要感を持ち、自ら資料の一部として副読本を開くような学習を展開する。
 - ・副読本の資料だけでなく副読本に付け加えたい資料も学習に活用することで、次期大改訂の資料とする。
- 副読本の活用については、これまで“教師が副読本を社会科学習にどのように活用するか”という視点からアプローチされてきた。本研究ではさらに“子ども自身が必要感や興味を抱いて副読本を開くには”という視点から副読本の活用法を検証し、その成果を「活用事例集」にまとめていくことにした。

② 研究全体構想

大改訂から6年目を迎える。副読本を、さらに子どもたちの学習に役立ち、市民読本としても価値あるものにしていくには、これまでの研究成果を活かした次期大改訂に向けたプロット試案を組み立て、検討を重ねていくことが重要となる。そこで、本研究では、プロット試案作成を中心に据え、これまでの検証授業・活用事例集・部分改訂などの各研究をリンクさせることで、次期大改訂に向けた基礎研究という方向性を持たせるよう研究の全体構想を考えた。



Ⅲ 研究の内容

1. 検証授業から

(1) 第4学年「わたしたちの神奈川県」

川崎市立梶ヶ谷小学校 石塚 綾子教諭

平成8年10月14日

○授業の観点

「川崎市の様子と比べ、神奈川県の様子について思ったことはないか。」という問いに対して、資料の探し方や活用の仕方を探る。

- ・副読本のどのページをどの様に活用するか。
- ・他にはどのような資料をどの様に活用するか。
- ・川崎市をもとに、神奈川県の様子を考えていく視点を持てるか。
- ・比較を通して神奈川県の様子を考えたり、発表に生かすことはできるか。

○主な流れと児童の反応

地図の確認

- ・神奈川県地図・川崎市地図・川崎市の位置

神奈川県内で行ったことのある場所を紹介し、地図や写真でその周辺の様子を知る。

- ・川崎市麻生区の青少年野外活動センター
川崎市の施設・毎年開いている親子祭りに参加。
副読本P165の写真参照
- ・横浜つくし野フィールドアスレチック
緑がいっぱいある。 駐車場が広い。
- ・小田原市内のお祭り
- ・厚木市の森林公園
アスレチックや山がある。
航空写真では厚木市内は家が多い。
- ・真鶴町
海がある。 海に赤潮が発生。 車で行った。
- ・川崎市麻生区王禅寺のヨネッティー
- ・丹沢
丹沢湖ダムがあるサイクリングをした。
そこから車で15分の奥丹沢でバーベキュー。
おたまじゃくしがとれた。
航空写真では山ばかり。
- ・横浜市の港みらいランドマークタワー
歩道が広くて店が多い。 外国人が多い。
タクシーがたくさん。 エレベーターで展望台へ。
航空写真では港の近く。
- ・箱根の大わく谷
約2万年前の箱根火山を再現していた。

ケーブルカーで大わく谷へ。 温泉地。
お湯のような物が沸き、くさくて熱そう。
航空写真では山奥。
・観音崎
旅館に泊まって海で泳いだ。

発表から、神奈川県の特徴について考える。また、川崎市と比べてみる。

- ・いい所 ・川が多い ・建物も多い
- ・神奈川県は半分は海に囲まれている。
- ・神奈川県は半分ぐらいが木におおわれている。
- ・山の方に木が多い。
- ・川崎市の黒川では木が削られていて、少なくなっていた。
- ・川崎市に比べて神奈川県は木が多いのか少ないのかは、よくわからない。埋立地は少ないみたい。

○考察

- ・川崎市内の場所の紹介では、多くの子どもがその場所について書かれた副読本のページを開いていた。写真だけ見ている子と文章も読む子どもと二通りみられた。全体的に意欲的に見ていた。
- ・副読本以外の資料では、立体の神奈川県地図模型をさわりながらよく見ていた。川崎市の立体模型もあるとよいと思われる。副読本の中で立体的にプレスできないだろうか。
- ・川崎市の掛地図を使用した。色付けの仕方が県の立体模型と違っていたため、県と市を比較した意見が出にくかったようだ。この色について疑問を持っている子どももいた。同じ色付けの仕方をした物を使用するとよかった。
- ・航空写真のカラーコピーを使用し、地図上の場所の確認とイメージ化に役立てていたが、色が青・緑系統で見にくかった。そのため、川崎市と神奈川県の違いがとらえにくかったようだ。もっと色の鮮明な写真がほしい。
- ・紹介カードには「川崎市と比べて」の欄があって、そこには川崎市との違いが書けていた。本時ではあまり活用されていなかったが次時から生きるように活用していくと、川崎市を基に神奈川県の様子を考えていく視点が持てるようになっていくだろう。
- ・本時のまとめで川崎市と神奈川県を比べていたが、川崎市といっても広く、どこくらべるとよいのか、子どもは迷っていた。教師が視点を整理して比較させたり、比較するときの根拠を話し合わせると、分かりやすくなっただろう。

(2)第5学年「運輸業にたずさわる人々」

～赤いダイヤは今・・・～

川崎市立日吉小学校 金子 和哉

平成8年12月6日

○授業の観点

- ・「宅配便のシステムや宅配利用者が急増したわけ」を調べたり考えたりする際、どのような資料の探し方や活用の仕方をするか。
- ・本文は、関連資料として読まれたり、さらに追究したい問題が生まれたりするものとなっているか。

○宅配便のシステムを調べ、「どのようにして、宅配便会社は利用客を増やしたのだろうか」という問題について話し合い、自分なりの考えをもつことができる。

○主な流れと児童の反応

なぜ、宅配便を使うのだろうか。

- ・次の日に届くから。
- ・便利だから。
- ・取りに来てくれて楽だから。

前時からの学習問題

どのようにして、1日で届けるのだろうか。

----- A さん -----
 ・ P107の絵図を使い、宅配便の輸送経路について友達に説明する。

----- B さん -----
 ・ 家で P107の絵図を模造紙に書き、宅配便の輸送経路について友達に説明する。

宅配便会社でもらったパンフレットを使い、1日で届けるシステムについて発表している児童もいた。

→(資)小荷物輸送の変化のグラフ提示

本時の学習問題

どのようにして、宅配便業者は利用客を増やしたのだろうか。

- ・コンビニエンスストアなら24時間受け付けてくれるから。
- ・決まった時間(指定時間)に届けてくれるから。
- ・家の近くでも取扱店があるから。
- ・たくさんコマースをして宣伝しているから。
- ・たくさんのお店や取扱店があるからではないか。
- ・コンピュータを使っているからではないか。

・配達の人に何か工夫があるのではないだろうか。

----- C さん -----
 ・ P83の川崎インターを出入りする車の時間別台数のグラフを見て「高速道路を使い全国に早く送ることができるから」と発表した。

----- D さん -----
 ・ P83の川崎インターを出入りする車の時間別台数のグラフを見て「高速道路の利用客の少ない時間をうまく利用して配送をしているのではないだろうか」と発表した。

----- E さん -----
 ・ P107のお年寄りの話を読み「昔は荷物が駅までしか届かなかったので、取りに行くのも送るのも大変だった。しかし、今は取扱店も近くにあり、生物でも冷蔵庫付きの配達トラックがあるので便利になり、お客が増えたのではないだろうか」と発表した。

次時の学習問題

他にも何か工夫があるのではないだろうか。

○考察

- ・ P83の川崎インターを出入りする車の時間別台数のグラフを使っただけの発言はあったが、表されている統計が車といった大きな枠でまとめられていた。乗用車とトラックといったわけかたで表すことができれば高速道路を有効に使っているということがもっとよく見えてきたのではないだろうか。
- ・ 一日で届くシステムについて P107の絵図は有効であった。また、絵図やグラフだけではなく、お年寄りの話の文章も問題を解決するために大切な資料ではないだろうか。
- ・ P79の川崎市内の道路網を資料として使う児童が見られた。運輸、通信の仕事のページだけではなく関連資料を見て、自分の考えを深めていく姿が見られた。
- ・ 副読本「かわさき」を有効に利用するためには教室に常時置いておき、自分の好きな時に『開く』環境を整えることが大切なのではないだろうか。

(3)第6学年「江戸時代を旅する」

川崎市立小田小学校 佐川 昌広

平成9年7月15日

○授業の観点

- ・歴史学習として川崎宿を扱ったとしたらどのような資料が必要か。
- ・万年屋の絵からどのような学習活動が組めるか。
- ・副読本以外の資料をどのように活用しているか。
- ・江戸時代の文化や人々のくらしを学習する上で、川崎宿という素材は有効なのか。

○主な流れと児童の反応

万年屋の絵を見て、気づいたことを話し合う。

- ・男の人はだいたいちょんまげをしている。
- ・いろんな人がいてにぎやか。
- ・女の人はだいたい働いている。
- ・茶屋みたいなことをしている。
- ・食堂って感じがする。
- ・今で言えばホテルじゃないか。
- ・旅館だな。
- ・2階が宿みたいだ。
- ・川崎宿って書いてある。
- ・馬に乗っている人はなぜ川崎に来たのかな。
- ・大名行列や川崎大師をお参りする人だと思う。

川崎宿の地図と現在の地図を見比べて、違いなどを出し合う。

- ・道は東海道かな。
- ・河原近くに万年屋があった。
- ・稲毛神社もあった。
- ・万年屋は現在もまだあるかな。
- ・現在の地図にはのっていない。
- ・稲毛神社は残っている。
- ・神社と寺は昔と変わらず残っている。
- ・大きな川は多摩川だ。
- ・多摩川の流れは昔と変わっている。

その他の資料をさがす。

- ・昔の地図の多摩川と副読本の表紙の多摩川の写真では様子がちがう。
- ・昔の方が曲がりくねっている。
- ・現在は東海道のところに橋ができています。
- ・副読本の昔の鉄道絵を見ると多摩川に人が乗った船が浮かんでいる。
- ・昔は橋がないから船で渡っていたんだ。

- ・職業や家の種類の地図を見せてほしい。

A くん

- ・細かい所にこだわって資料を見る。
- ・地図で万年屋や寺社を探す。
- ・地図と副読本の表紙を見比べる。
- ・周囲の友達に情報提供する。

B さん

- ・友達の意見を副読本で確かめる。
- ・友達と情報交換しながら考えを確かめる。
- ・地図から小土呂橋などの古い地名を探す。

万年屋の分析からは

○考察

- ・副読本の万年屋の絵を丁寧に見て多くのことに気づいていた。副読本の絵だと小さく、B4の大きさに拡大したので、様々なことを見つけやすかったようだった。子供の興味を引く資料だったので、興味が途切れなかった。
- ・万年屋の絵から川崎宿全体の話へ広がっていきにくかった。資料の分析を教師が事前しておく必要があった。
- ・副読本の表紙の写真に目を向ける子も多かった。
- ・すべての資料の見方が同じだったので、それぞれの資料の切り替わりがはっきりするように、意図を持った資料の配列の仕方が重要であった。(万年屋の絵から川崎宿を予想させ、地図の必要感を持たせる。次に川崎宿のにぎわいのわかる資料や業種別地図を見せ、最後に現在と昔の比較地図を提示する。そこで見学コースを考え、調べるための視点を持つ)
- ・川崎宿という素材からは、人々が集まるところに産業やくらしなどの文化が見えてきた。副読本に江戸時代の風俗資料が、もう少しあると、なお良かった。
- ・次時に、「だれが川崎宿を開いて、どのように大きくなって、今はどうなったか」というクラス共通学習問題が子供達によって作られた。

(4)第3学年「町の人たちのしごと」

～矢沢さんの野菜作り～

川崎市立向丘小学校 中川 通彦

平成9年11月20日

○授業の観点

川崎市全体の田畑の変遷の様子をつかみ、自分たちで調べた学区にある田畑の様子と関連づけて、これからの農業の在り方について自分なりの考えをもつ。

- ・「田畑の広がり」と「農家数のうつつりかわり」の資料を関連づけて考えることができるか。
- ・川崎市全体の田畑の変遷から学区の田畑にまで考えを広げることができるか。
- ・学区で野菜作りに携わっている人の営みへの共感的理解が図れるか。

○主な流れと児童の反応

川崎市の田畑の変遷の様子を知る

【かわさき】P98「田畑の広がり」

- ・田畑が減っている。

Aさん

- ・前に出て2枚の地図を比べながら、高津区の減少ぶりを指摘する。
- ・人が増え、家を造るために畑をつぶさなければいけなかった。
- ・昔はスーパーとかがなくて、自分の家で作らなければいけなかった。
- ・農業をやっている人が少なくなったのでは。

【かわさき】P99「農家数のうつつりかわり」

- ・仮運動場も昔は畑だった。
- ・僕の引っ越したマンションも畑だったらしい。
- ・矢沢さんもやめちゃうかもしれない。土地をゆずっちゃうかもしれない。

Bさん

- ・P98の地図にマークをつけたり、P99のグラフをていねいに読み取ったりして、隣の子と昔田畑だったところの場所について意見交流している。

矢沢さんは野菜作りを続けていくか話し合う

Cさん

- ・【かわさき】を手にもち、1971～1991年を見て田畑が減ってきているのだから今後も減っていくだろうと発表した。

Dさん

- ・P98の本文を読み、【かわさき】にもものっているけど、時代とともに人口や排気ガスも増え、畑はへてくると発表した。
- ・続けてほしいけど土地を譲ってしまうかもしれない。
- ・畑の回りにも大きな建物が建ってきている。続けるのは難しいのでは。

Eさん

- ・矢沢さんの言葉を思い出し、自分の子供のようにかわいがって野菜を育てているのだから続けると思うと発表した。
- ・学区でもどんどん畑が減ってきている。矢沢さんには続けてもらいたい。

矢沢さんの話を聞く(VTR)

- ・まだ続けていくって、よかった。(拍手)

○考察

- ・農家の人(矢沢さん)の話がよい教材になり、【かわさき】の資料の読み取りにも広がりや、深まりがみられた。
- ・川崎市全体の田畑の変遷の様子を学区と結び付けながら、根拠をもって発言していた。資料と見学・聞きとりがよくマッチし、授業に活かされていた。
- ・P98「田畑の広がり」の地図とP99「農家数のうつつりかわり」のグラフが、子供たちの思考を促すのに有効であることが分かった。地図とグラフの年号が対応できればさらによい。
- ・地図の表記上、川崎区には田畑がまったくないと錯覚されやすい。昭和30年頃の地図を入れることにより減少してきた様子が分かるのではないか。
- ・田畑の減少の事実から、お世話になった矢沢さんも農業をやめてしまうのではないかという危機感をもち、学区の農業について再度目を向けることができた。

以上のように、今回の授業を通して分かったことはグラフや地図などの資料がいかによくても、その読み取りだけでは、3年生の子供たちにとっては表面的な理解に終わってしまう。また、子供たちの見学・調査だけでは、思考の広がりにも限界が見られる。きちんとした調査があり、子供たちなりのこだわりがあってこそ、資料が生きてくるし、その逆に、よい資料は、子供たちに既習の学習を喚起させるのに有効である。

2. 活用にあたって

(1) 副読本の配付と活用の実際

①配付にあたって

副読本は、市内めぐりをしても見られない航空写真や、社会事象に対する見方や考え方を示唆する資料が数多く掲載されている。そこで、配付する時には、「川崎市のこといろいろ知りたい。」という子どもたちの意欲に応えとともに、川崎市の一員である子どもたちの市民としての自覚を促す第一歩となるようにしたい。

- ・「この本は、教室にいたままで友達と川崎市探検をしてしらべることができる本だよ。」
- ・「表と裏の表紙を広げて見てみよう。」
飛行機から見え川崎市の様子で気がつくことや行ったことのある場所などを話し合う。
- ・「中にはどんなことが書いてあるかな。」
行ってみたい所や、知りたいことなども自由に発表させたい。
- ・「みんなの住んでいる町のことも出ているよ。何ページあたりにあるかな。」
自分たちの住む区の航空写真と絵地図のページを探し、様子や絵地図、行ったことのある町、他の区と比べて気付いたことなどを話し合う。
- ・「家で、また見てみよう。もっと、違うことを発見したら、友達や先生に教えてね。そして、お母さんやお父さんにも見せてあげよう。」
6年生まで、また大人になっても利用できる本であること、休みの日に父母と川崎のいろいろな所に出かける時のガイドブックにもなることを知らせたい。

②活用の実際～川崎市立梶ヶ谷小学校での実践～

- ・単元名「市の様子と人々の暮らし」

巻末の川崎市地図を見て、行ってみたい、調べてみたい場所を見つけよう。(1時間)

- ・自分達の町の位置
- ・行ってみたい場所と理由

市内めぐりで川崎駅まで行く行き方を川崎市地図で調べよう。(1時間)

- ・乗降駅名
- ・利用鉄道名
- ・途中の駅の数や駅名の確認など

市内めぐりで行く川崎駅周辺や海の近くの様子を副読本で調べて、どんな所を探検したいか考えよう。

- ・駅前商店街
- ・地下街
- ・デパート
- ・川崎マリエン
- ・船
- ・港

川崎市について、もっとたくさんの場所を調べよう。副読本から見つけて、もっと詳しく調べる方法を考えよう。

- ・施設名
- ・駅名
- ・行き方
- ・地図上の位置と写真や文章から調べる
- ・資料の集め方の話し合い

調べた場所を紹介しよう。(1時間)

- ・地図上の位置や『かわさき』の写真、集めた資料等を、掛地図や実物投影機でテレビに映したりして示し、紹介する。
- ・調べた地域の様子や特徴をまとめ、全部を比べて市全体の特色について理解する。

③活用のポイント

- ・副読本の写真・グラフ・地図等の活用法
調べた所の写真等の資料を、教師用副読本から切り取って、実物投影機でテレビに映したり、地図や模造紙に貼って活用する。自分達の調べたことを地図やグラフ、絵や写真で表現していくという、これ以後の社会科学習でも活かせる表現方法を獲得する。副読本の資料を利用し、子どもの発想を大切にすままとめられるように、3年生の発達段階を考慮しながら支援する。
- ・その他の資料の活用
家や区役所で聞いたこと、市民便利帳などその他の資料も生かして、多様な調べ方をさせたい。副読本だけでなく、実際に話を聞いたり、パンフレットを集めたりする活動などを併せて調べさせていく。また、調べる中で友達や父母、地域の人達との触れ合いや、必要な資料を収集、選択していくなど「調べる楽しさ」も経験させるようにしたい。こうした経験は、これからの地域学習の中でも生かせるので、適切なアドバイスをするとともに、多様な調べ方やその子なりの表現方法を大いに認めたい。
- ・初めての社会科学習にスムーズに移行する為に
社会事象への見方や考え方を育てるために、地域に出て具体的に調べる学習と、副読本の写真やその他の資料を活用して調べる学習とを、子どもの関心や意欲に応じて関連させて取り入れるようにする。具体的な体験的活動の他に間接的な資料に対する観察力、活用力をみがき、問題を洞察し、解決する力を養いたい。

(2)産業学習での活用

①ねらい

- ・食料生産、工業生産について学習してきたが、常に自分への振り返りが必要である。実際に川崎の「おおぞら学園」や公害対策条例などを取り上げることににより、豊かで便利な生活と表裏一体の関係にある公害問題に関心を持てるようにする。
- ・工場の進出、交通道路網の発展等、京浜工業地帯としての川崎の産業の発展の影には、公害の犠牲となり健康を奪われた多くの人々がいることに気付く。又公害の広がった背景や現状をとらえ、公害の防止については、行政や企業と共に自分自身も積極的に取り組まなければいけないことに気付く。

②活用の実際～王禅寺小学校での事例～

- a) 小単元名「公害をふせぐ努力」
- b) 小単元目標

昭和40年代の川崎市の公害の実態を調べ、公害の広がった背景や現状をとらえると共に工業型から生活型へと変化してきた現在の公害の実態をつかみ、自分たちにできることは何かを考えようとする。

c) 主な学習の流れ

前時までの学習

工業学習のまとめ

これからの日本の工業のあり方はどうなのか
環境にやさしい工業生産

↓
これまでの工業に、害はあったのか

水俣湾の仕切網の撤去のニュースをもとに、水俣での公害問題を知り、今も引きずっていることに気付く。

- ・教科書、資料集をもとに、水俣病について調べる。
- ・水俣の漁師さんの声や、新聞の切り抜き等をもとに何故、仕切網がつけられたのか、又、はずされても残る問題について考える。
- ・工業の盛んな地域と公害が起こる場所を白地図に書き込むことにより、深く関連があることに気付く。
- ・人々の生活より、工業生産優先という考えがあったことに気付く。

川崎の公害の実態や、その防止に向けてどんな取り組みがされているのか調べる。

- ・副読本の『緑の中の福祉施設』（P80～81）を見て、何故井田病院の中に「おおぞら教室」が作られていたのかを考える。
- ・「おおぞら学園のお友達の作文」を用い、同じ小学生が臨海部の大気汚染により、公害の犠牲者になっていることを知り、何故そのようになってしまったのか、工業の推進と環境保全について考え話し合う。
- ・副読本の『よりよい環境づくり』（P176～177）をもとに、公害監視センター、空気や水の自動測定器の設置や、環境基本条例、環境週間等、市を中心とした国、県の取り組みについて調べる。
- ・教科書、資料集を用いて、昭和40年代と現在では公害の内容にも質的な変化があることをつかみ生活型公害となった現在、自分たちにできることはないか考え発表する。

全国の公害について自分の考えを新聞にまとめる。

- ・いまだ公害病に悩む人々がいることや、現在の公害の質的变化を押さえて、自分たち一人一人にできることは何かを考えてまとめる。

③活用のポイント

- ・副読本「かわさき」はどうしても中学年での使用頻度が高くなるが、5年生の農業生産、工業生産、通信運輸の単元では、身近な川崎に目を向け、関心意欲を持たせて、全国に広げていくことが効果的である。今回の単元のように公害学習では逆に、各地の公害問題を、同じ小学生が喘息で悩んでいる川崎へと戻すことで、身近なものに引き寄せる視点づくりとして副読本の活用が考えられる。

公害について

① 全国の公害について

② 川崎市の公害(公害の対策)

③ 公害の対策

年	被害者数	公害対策施設数
1972年	3272人	44
1981年	2687人	113
1984年	1524人	113

公害の種類

- 水質汚濁 33.2%
- 大気汚染 28.5%
- 騒音 25.5%
- その他 12.8%

(3) 歴史学習での活用

①ねらい

- ・6学年になって、日本の大きな流れを大きな歴史事象を通して学習してきている。「15年も続いた戦争」の歴史学習については、川崎空襲を取り上げることにより、地域の歴史に興味や関心がもてるようにする。
- ・子供たちが住んでいる川崎の歴史事象を学習することにより、自分たちが暮らす郷土「川崎」に愛着が持てるようにする。

②活用の実際～柿生小学校での事例～

a) 小単元名「川崎にも戦争があった」

b) 小単元目標

戦争の経過や川崎空襲、学童疎開の様子などについて調べ、15年にわたる戦争は国民生活に大きな影響を与えたことをわかってもらう。

c) 主な学習の流れ

広島・長崎への原爆投下について調べ、被害の大きさを知る。

- ・原爆投下について知っていることを、話し合う。
- ・教科書や資料集を使って、原爆投下によって受けた被害を調べる。

原爆投下をきっかけに終戦をむかえた戦争について調べる。

- ・1930年頃から1945年までの、日本と世界の動きを年表を使って調べる。
- ・戦域の拡大の様子を調べ、地図に色をぬる。
- ・戦場となった国の人々に与えた影響や損害についてまとめる。

川崎空襲や地域の当時の様子について調べる。

- ・副読本(p112)の川崎空襲の写真を見て、気づいたことを話し合う。
- ・副読本の「焼け野原になった川崎市」「空襲による被災地域」「おじいさんの話」などをもとに、川崎空襲の被害の様子について調べる。
- ・父母や祖父母からの聞き取りなどをもとに、学童疎開の様子やその当時の生活の様子について話し合う。

戦争が与えた国民生活への影響について考え、戦争についての自分なりの考えを持つ。

③活用のポイント

- ・副読本を歴史学習で活用する際は、本誌に掲載された川崎の歴史事象や巻末年表をひとつの資料として扱い、そこから日本の歴史のあゆみへと視野を広げたり、自分たちが住む郷土川崎に対する理解を深めたりしていけるよう学習活動を展開するのが効果的である。
- ・「焼け野原になった川崎市」(p112)は、「かわさき学習指導資料」の解説や補充資料、「輝け杉の子」などと併せて扱うことにより、より具体的な学習資料として活用することができる。
- ・本事例では、空襲の様子を知る手がかりとして使ったが、バラック小屋を建てて生活しているところの読みとりから、戦後の復興に向けての学習にも活用できる。

6の

やっちゃんだめだよ戦争

・ほとんどの家が焼かれていて遠くまで見える
 ・人気がない
 ・残っている建物はびんぼろ
 ・バラック小屋が何戸かあるので、空襲の後にだれかがたてたようだ。煙もある。人が住んでいそうだ
 ・建物が黒くこげている。だいたい空襲だったのだと思う
 ・空襲前がどんな町だったのかまるきりわかりません
 ・まどがガラスがわれている。

柿生がまわってきた子供たちをかいいたなんぞ知らなかった。この川崎市もこの空襲があったことも知らなかった。川崎市は、この安全なところと思、たぬとそぞもないみた。戦争と聞くと、いざん昔のことかなと思、うけれど、おじいちゃんもその時代に生きていたと思うと、みだかに感じた。その時代に生きていた人は、とても悲しい思いをしただろう。もうこんなことを二度と起こしてはいけません。

私は、戦争が起こるのはなぜか?と、言うことを考えながら聞いてみました。当時13さいの手が経験した出来事は、とても辛く、悲しいものだったと思います。私は、二度と戦争が起きないことを願っていますが、実際に体験していないので、いじり中では、甘くみていると思います。けれど、実際は親とはぐれ、友とはぐれ、自分一人になるのは、とてもイヤです。だけれど、その子は、強く生きてきたのだから、私も強く生きていきたいです。戦争が起きるか起きないかは、私達に決まっています。

3. 部分改訂について

町は生きている。1993年に大改訂が行われてから、川崎駅周辺、溝の口駅周辺と川崎も刻々と変化している。また、より子どもが活用しやすいような資料を掲載することが必要である。そこで、以下のような視点で毎年見直しを行い、部分改訂を重ねていくことにした。

部分改訂の視点

- ・川崎の明るいイメージが伝わる写真にする。
- ・最新のデータを載せていく。
- ・再開発などで変貌著しい地域の写真を変える。

また、川崎の今を残すという視点で、変貌著しい箇所をリストアップし、写真の定点撮影を行うことにした。さらに撮影した写真を、将来的にはデータベース化していくことで次期大改訂の資料として活用できるばかりでなく、川崎市の大きな共通財産にもなる。

＝平成8年度に改訂した箇所＝

No	ページ	キャプション
1	4・5	川崎駅東側
2	30	市役所のまわりの様子
3	44	中原区役所のまわりの様子
4	50・51	等々力緑地
5	52	高津区役所のまわりの様子
6	56・57	KSP
7	58	多摩区役所のまわりの様子
8	86	夢見ヶ崎動物園
9	99	農家の移り変わり
10	160	鶴見川をわたる村人たち
11	165	三田の青少年創作センター
12	166	宮崎青少年の家
13	裏表紙	押し絵
14	178・9	押し絵

＝平成9年度に改訂した箇所＝

No	ページ	キャプション
1	16	川崎港
2	42	工業跡地にできた新しい住宅とビル
3	43	鶴見操車場跡地
4	58	多摩区役所のまわりの様子
5	81	井田病院→レインボーかわさき
6	137	東京湾横断道路予想図→写真
7	166	市制60周年記念総合公園
8	171	プチョン(韓国)ダナン(ベトナム)

＝部分改訂では＝

- ・明るいイメージを大切にする。人との関わりが見える。
- ・鮮明な航空写真
- ・最新情報を掲載するため、5年刻みのデータを載せる。
- ・再開発など変貌の著しい地域を差し替え、副読本の中に「開発中」などと表記をする。
- ・名称変更、写真の差し替えによる本文の改訂

＝川崎の今を残す＝

変貌の著しい川崎の今を写真として残し、データベースとして保存管理することは、次期大改訂ばかりでなく、川崎市の大きな財産となる。今年度は定点撮影箇所の候補をまとめ撮影にあたった。候補地は「川崎市都市再開発方針」をもとに選定した。撮影箇所は以下の通りである。

(1)浮島ジャンクション周辺

- ・浮島公園 ・木更津行きフェリー ・浮島ジャンクションより陸側、海側、東扇島側、その他の埋め立て地

(2)川崎駅周辺

- ・ソリッドスクエア ・川崎東芝前郵便局県公社中幸町住宅 ・市営大宮町住宅 ・川崎駅西口ターミナル ・JR川崎駅ターミナル ・京浜川崎駅 ・川崎駅コミヤ前交差点 ・京浜電車 ・川崎駅東口全景

(3)鹿島田、新川崎地区

- ・新川崎駅前 ・鹿島田駅周辺、タンガロイ跡地

(4)小杉駅南側

- ・中小企業婦人会館屋上より東横線、NEC、東電中原変電所方面 ・綱島街道 ・向河原駅前

(5)溝の口駅周辺

- 駅周辺工事現場 ・さくら銀行角 ・マルエツ十字路から高津、イトーヨーカー堂、溝の口駅、田園都市線方向 ・ガード周辺 ・ノクティ周辺

(6)登戸周辺

- 登戸商店街、登戸駅、駅周辺

(7)柿生

- 駅広場、再開発の様子

(8)黒川、マイコンシティ

- 黒川東観光農園からマイコンシティ ・黒川東観光農園 ・黒川東農村広場 ・マイコンシティ建設予定地区 ・黒木御獄神社とその周辺

今年度は、できる限り様々な方角から撮影し、保存した。「川崎の今を残す」という活動の第一歩を踏み出した。さらに将来的には、「川崎の今」を撮影した写真のデータベース化を促進していく方向で取り組んでいければと考えている。

4. 活用事例集作成について

(1) 作成の経緯

副読本は、平成5年度に全面改訂されビジュアルな編集と最新の内容を盛り込むことで、「川崎の今の姿」を伝える副読本に生まれ変わった。さらに、平成6年度には、教師用「学習指導資料」も発行された。

研究当初に実施した副読本利用状況アンケートから回答が多かったものだけを抜粋すると、

——副読本利用状況アンケート結果より(抜粋)——

- ◆3年の川崎市の学習での活用方法は？
 - ・調べ学習の資料として
 - ・教科書として
- ◆3年の川崎市の学習以外で活用した単元は？
 - ・二ヶ領用水、新田開発 (4年)
 - ・くらしの移り変り (3年)
- ◆活用しやすくするための改善点は？
 - ・すぐに使えるワークシートを増やす。
 - ・学習への活用方法を具体的に例示する。

という結果となった。「副読本の豊富な資料を学習にぜひ活用したいが、どこで、どのように活用していったらよいのか…」という現場の姿が見えてくる。副読本は、子どもたちの学習資料であると同時に、川崎市民に自分達の住む川崎の姿を知ってもらうための市民読本としての一面をも合わせ持っている。そのため、学習資料として活用しきれないことへの戸惑いが表れているようだ。

(2) 作成にあたって

社会科学習に副読本を活用していくためには、従来の副読本の内容を子どもにどう教えるかという学習から、副読本を一つの資料として使いこなす学習能力を育てる学習へと教師の発想を転換していく必要がある。

また、副読本は5・6年生での活用が難しいといわれるが、子どもたちの生活経験の外にある「日本の産業や歴史」「世界とのつながり」といった学習への窓口として「身近な川崎ではどうなっているのだろう。」という視点から単元を組み立てていくことで、副読本を有効に活用することができる。こうした川崎(地域)発の学習において、副読本は高学年の社会科学習でも大きな効果を発揮すると期待できる。

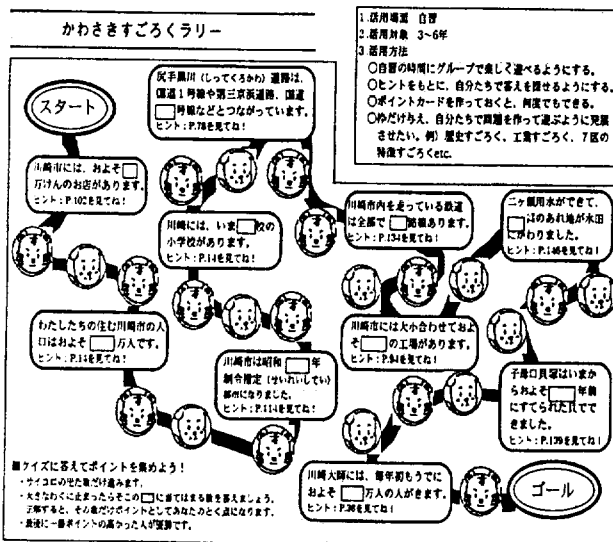
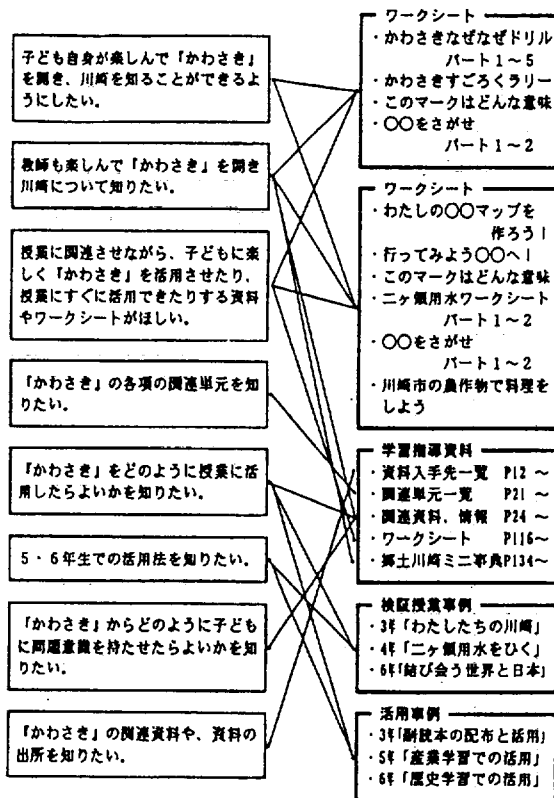
上記の考えに基づき、次の事項に留意して活用事例集を作成することにした。

- ・副読本ならびに学習指導資料の活用法や学習との関連が、事例を通して具体的にわかるものとする。
- ・教師のニーズに応じて役立てられるよう「活用事例集の使い方」で関連項目が一览できるようにする。(「活用事例集の使い方」参照)

- ・子ども自身が普段から興味を持って副読本を開くようになるための活用例を示す。(ワークシート例参照)

活用事例集は、教師が社会科学習に副読本を活用していくためのヒントとなるよう「ワークシート例」「学習指導資料ワークシートの紹介」「授業での活用事例」などを掲載した。これを通して教師自身がまず副読本を楽しんでほしい。そして、その楽しさを子どもたちに伝えてほしい。子ども自身が副読本に日頃から親しみ、使いこなしていくことで、副読本が「地域を学び・地域で学ぶ」学習の仕方や「地域に生きる力・地域から思考を広げる力」を身につけていく手助けとなればと考えた。

【活用事例集の使い方】



子どもが興味を持ち活用するワークシート例

5. プロット試案作成について

(1) 作成のねらい

現在の副読本は、以下のような特色をもって編集されている。

- ① 3・4年生の地域学習に即し、多様な角度からわたしたちのまち川崎をとらえた構成となっている。
- ② 対象を3・4年生に絞ることで、平易で分かりやすい記述になっている。
- ③ 川崎の特色をとらえたカラー写真を中心に紙面を構成することで、視覚から興味を引き出し文章記述で社会的な意味付けを考えていけるように編集されている。
- ④ 社会科学学習資料であるとともに、市民読本としての性格も合わせ持っている。

これら特筆すべき副読本の特色に基づき、これまでの授業研究や活用事例集などの研究成果をプロット試案としてまとめることで、次期大改訂に向け研究を焦点化するとともに、基礎データを蓄積していきたいと考えた。

(2) 作成に当たって

プロット試案作成に当たっては、研究成果を活かし以下のような方針で取り組むことにした。

- ① 社会科学学習資料であるとともに、市民副読本としても広く活用されるものとする。
- ② 従来の3・4年生中心の内容から、5・6年生や中学生にも活用される内容を盛り込み編集する。
- ③ 従来の地理分野に加え歴史分野を充実させることで、川崎を空間的な広がりだけでなく時間的な経緯の中からとらえることができるようにする。
- ④ 二ヶ領用水や新田開発などの開発単元は、歴史分野の中に位置付ける。
- ⑤ これからの教育課題にも対応できるよう平和・環境・福祉・ボランティアなどの項目を加える。
- ⑥ 川崎の産業については、その特色だけでなく川崎発の学習を想定した内容と資料で構成する。
- ⑦ 各学年ごとに社会科学学習に直接活用できる内容と資料で構成した重点単元を設定する。
例)・4年「二ヶ領用水・新田開発」(開発単元)
・5年「工業生産を支える人々」(産業単元)
・6年「白山古墳と大和朝廷」(歴史単元)
- ⑧ 郷土川崎についての情報や統計資料などを巻末資料として掲載することでより資料性を高める。
・川崎なぜなに集
(川崎について調べてみたいという興味を持たせる)
・郷土かわさきミニ事典
(川崎の歴史や事物に関するミニ事典)
・統計データ
(社会科学学習に必要と思われる川崎市の統計資料を掲載することで高学年の学習にも対応する)

プロット試案 (小項目と現行同様の大項目は省略)

編	大項目	中項目
地理	1. 百万都市・川崎市	(1) 空から見た川崎 (2) 地図を見て ～以下略～
	5. 川崎市の人々の仕事 *川崎の産業の特色および川崎発の5年生の産業学習を想定して小項目を設ける。	(2) 工場の仕事 【5年生重点単元】 (3) 農家の仕事 (4) 商店の仕事 (5) 運輸・通信の仕事 (6) サービス・情報の仕事
歴史	6. 川崎のうつりかわり	(1) 市民ミュージアムをたずねて (2) 大むかしの川崎 (3) 古墳ができた頃の川崎 【6年生重点単元】 (4) 奈良・平安時代の川崎 (5) 鎌倉・室町時代の川崎 (6) 江戸時代の川崎・開発 【4年生重点単元】 (7) 明治時代の川崎 (8) 大正時代の川崎 (9) 昭和時代の川崎 (10) 川崎歴史探検マップ
	*歴史を大きく取り上げ、その流れの中に開発単元や市の移り変わりを位置付ける。	
くらしと民俗	7. 川崎の人々のくらしのうつりかわり ～以下略～	(1) 日本民家園をたずねて
ふるさと川崎	8. 平和なくらしをもとめて	(1) 川崎市平和館をたずねて (2) 新たな地球平和をめざして
	9. 住みよい環境 ～以下略～	(1) リサイクルセンターをたずねて
郷土事典 地図年表	11. 川崎なぜなに集	*郷土事典や統計データを巻末に入れることで資料性を高める。
	12. 郷土ミニ事典	
	13. 統計データ	
	14. 川崎市域地図	
	15. 川崎年表	

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1. 授業研究を通して

平成8・9年度と2年間で4本の授業研究を行った。副読本を子どもがどのように活用するか、どのような補助資料が必要かを中心に授業研究を進めてきた。その中で「川崎発の学習展開」の重要性も見えてきた。

第3学年「わたしたちのまちの仕事」では学区にある農家の人々の学習をもとに川崎市の農業の様子へと広がっていった。自分の住む町から川崎へと産業という視点で広がりを持つことができた。

第4学年「わたしたちの神奈川県」では、学習の導入部分で副読本を活用した。川崎市の学習で身につけた見方を生かして、神奈川県の他の地域と川崎市との違いを副読本及び他の資料から見つけ出す姿が見られた。

第5学年「運輸業にたずさわる人々」では、副読本の107ページをもとに宅配便の輸送経路を説明したり、お年寄りの駅留め小荷物の話から宅配便の便利さに気づいたりすることができた。教師が用意した補助資料や子どもが自分で用意した資料も活かし、宅配便が利用客を増やしていったわけについて考えることができた。83ページ「川崎インターを出入りする車と時間別台数」の図からは宅配便の速さの秘密を探ろうとする子どももいたが、車種別の表示でないため時間の特定ができなかった。

第6学年「江戸時代を旅する」では、副読本の万年屋の絵から学習が始まった。万年屋の絵から東海道川崎宿の様子について関心を高め、さらに多くの発見や疑問を持つことができた。万年屋から川崎宿の様子を予想させ、地図の必要感を持たせることができれば、その後提示した地図がもっと生きてきたであろう。

どの授業においても「川崎発の学習」「補助資料の活かし方」という視点で取り組んだ。副読本を中心的資料にするか補助資料にするかは別として、副読本の資料を子どもがどのように活用するかが分かり、次期大改訂のプロット立て、有効な掲載資料、活用事例集に掲載する資料を考える上で大きな成果を上げることができた。

2. 活用事例集について

平成6年度に発刊された「学習指導資料」と「活用事例集」を併用することで副読本の活用をさらに促進できるのではないかと考え、活用事例集の作成にあたってきた。朝自習や授業で活用できるワークシート、学習を深める資料、学習の進め方など数十点を作成した。

さらに、社会科研究会総会や川崎市総合教育センター夏季研修講座のうちに「学習指導資料」「活用事例集」を紹介したり、実際に活用事例を取り上げたりすることで、「学習指導資料」「活用事例集」の存在や副読本の活用をアピールしてきた。副読本をどのように活用するか

を提案し続けるために、今後も魅力ある、実践ある活用事例の収集や開発に努めていくことが重要であると考えている。

3. プロット試案作成について

歴史分野の充実、川崎発の学習、平和・環境・福祉などの項目の追加、各学年ごとの重点単元の設定、郷土川崎についての情報や統計資料の巻末資料化など、現在の副読本のよさを活かしつつ活用の幅を広げる内容を考えてきた。

このように新たな観点から副読本の内容を見直し、授業研究や活用事例集などの研究成果をプロット試案としてまとめ、次期大改訂の参考となるよう取り組んできた。

この試案をもとに、次期大改訂のプロット作成を柱に今後も“子どもたちが開きたくなるような”副読本の研究を進めていくことが重要である。

4. 今後の課題

- ・部分改訂と「川崎の今を残す」取り組みを連携させ、定点撮影及び写真のデータベース化をはかっていくことが重要である。
- ・副読本を活用した「川崎発の学習展開」を構想していくためには、今後、単元の構想やそのために必要な資料の検証及び、プロット案の検証が必要である。
- ・副読本の活用を促進するためには、教師や子ども自身が興味を持って活用できるように魅力ある活用事例をさらに充実を図る必要がある。

〔指導助言〕

川崎市教育委員会指導主事	菊池 真
川崎市立柿生小学校長	荒木 和男
川崎市立西有馬小学校長	神谷 肇
川崎市立渡田小学校長	吉田 武
川崎市立長沢小学校長	菊地 恒雄
川崎市立犬蔵小学校教頭	横山 吉雄
川崎市総合教育センター 教育相談センター室長	本告 一生

〔執筆委員〕

川崎市立小田小学校	佐川 昌広
川崎市立日吉小学校	金子 一哉
川崎市立新城小学校	桑野ヨシ江
川崎市立東高津小学校	小島 直人
川崎市立梶ヶ谷小学校	石塚 綾子
川崎市立宮崎小学校	山本 充起
川崎市立向丘小学校	中川 通彦
川崎市立長尾小学校	芹澤 伸司
川崎市立王禅寺小学校	小松 典子
川崎市立柿生小学校	鈴木 優子
川崎市立虹ヶ丘小学校	松岡 広記